

2020年 8月 23日

主 日 礼 拝

①8時半 ②10時半 ③13時半 ④19時

司 会 ②白川 達男兄

奏 楽

祈 禱 ②石井 秀人兄

賛 美 聖歌503番 & ~ Above All ~

主の祈り

聖 書 ヘブル人への手紙6章9～18節

特別賛美 大和カルバリー聖歌隊&アンサンブル

メッセージ 「神が約束された大いなる希望」

石井 潤 牧師

献 金 聖歌651番 & ~愛する主の~

祝 禱

お知らせ

〔司会者〕

賛 美

~見つめ続けます~

礼拝にお越しくださった皆様を心よりご歓迎いたします！
《今週のお知らせ》

★共に礼拝をお捧げできる恵みを感謝します。神の守りと助けを祈ります！

☆今週の祈り会は、○早天祈祷会：月曜朝6時。○木曜祈祷会：10時半・19時半（大和の祈祷会の映像を用います）。○準備祈祷会：土曜夜8時。

★来週の日曜礼拝も4回行います。御言葉によって養われましょう！

☆一年に一回聖書を完読できる！ Bible Reading Plan [8/23- /30]

Date	日	月	火	水	木	金	土	日
聖書	使徒 3-5章	6- 7章	8- 9章	10- 11章	12- 14章	15- 16章	17- 19章	20- 21章
チェック	〇〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇〇	〇〇	〇〇〇	〇〇

「神が約束された大いなる希望」

～不動の錨としての揺るがない希望～

「それは、変ることのない神の約束と誓いという二つのものによって、偽ることのない神のみもとに保護を求めて逃れて来た私たちが、自分たちに与えられた望みを、しっかりと握るために、力強い励ましを受けるためである。」　ヘブル人への手紙6章18節 [現代訳]

先週まで私たちは詩篇を読んできました。詩篇に時々登場しますが、神様のことを「あなたは私の避難所、高きやぐら」というような表現があります。詩篇の著者は、常に戦いの中にありました。パレスチナでは常に諸外国からの侵略を受けるという危険性がありましたが、そのようないわゆる「戦争」としての戦いだけでなく、筆者は自分自身の人生の戦いを意識していたように思います。だからこそ、神様ご自身を自分の救いとして求め続けたのです。

私たちも人生の戦いを意識する時に、避難所であるお方をすぐに求めて行くことはとても聖書的であり、信仰者としての生き方であることを意識して歩みたいと思います。

また、6章19節に「この望みは、わたしたちにとって、いわば、たましいを安全にし不動にする錨であり…」と書かれていますが、FBマイアー先生は「…神の約束と誓いは、二重のとびらになっている。そのうしろにのがれた者は安全である。二重窓のある部屋には、騒音も聞こえて来ない。このたとえは、のがれの町か、またはあらしを安全に乗り切る船を示している。『この望みは…安全』である。というのは、錨がしっかりと地に降ろされているからである。またそれは『確か』である。というのはその錨鎖はどんなにひっぱっても切れないからである。その望みはまた『幕の内側にはいる』なぜなら、それは私たちを見えないものに結び付けてくれるからである。イエスは私たちの錨を内なる港に持って行き、それを、きれいな、静かな水の中に投げ入れてくださったのである。」と解説されていました。詩篇119篇は最も長い詩篇ですが、その中心は神様の御言葉であり、自分の人生の土台は神様の御言葉そのものだと言っています。「若い人はどうしておのが道を清く保つことができるでしょうか。み言葉にしたがって、それを守るほかにありません。9節」「わたしは苦しまない前には迷いました。しかし今はみ言葉を守ります。あなたは善にして善を行われます。あなたの定めをわたしに教えてください。67・68節」ユダヤ人の根本には神の御言葉がありました。それが、彼らの人生の揺るがない錨となりました。私たちクリスチャンにとっての錨も、もちろん神の御言葉ですが、それ以上に生きた御言葉であるイエス様ご自身です。このお方が私たちの人生を確かな道へと導きます。

日々、神の御言葉である聖書を読みましょう。また、それ以上に、生きた神の御言葉であり、信仰の導き手であるイエス様を求め、祈り、礼拝し、讃美して進んでいきましょう！主は今週も私たち一人一人と共に生活の細部に至るまでご一緒し、私たちの生活の細部に至るまで、手を回してくださり、最善に導いてくださいます！